

鹿島建設株式会社

環境データ集

ENVIRONMENTAL DATA

2024

環境方針

鹿島は“100年をつくる会社”として、
長期的な環境ビジョンを全社で共有し、
環境保全と経済活動が両立する持続可能な社会の実現を目指す。

1

自らの事業活動における環境負荷の低減はもとより、
建造物のライフサイクルを考慮し、
低炭素社会、資源循環社会、自然共生社会の実現を目指す。

2

上記取組みを支える共通の基盤として

- 環境の保全とその持続可能な利用に資する技術開発を推進する。
- 事業に関わる有害物質につき自主管理も含め予防的管理を推進する。
 - 積極的な情報開示を含め、広く社会と連携を図る。

鹿島環境ビジョン

● ビジョン策定の背景

鹿島は、建設事業における環境上のリスクと機会を以下のように評価しています。

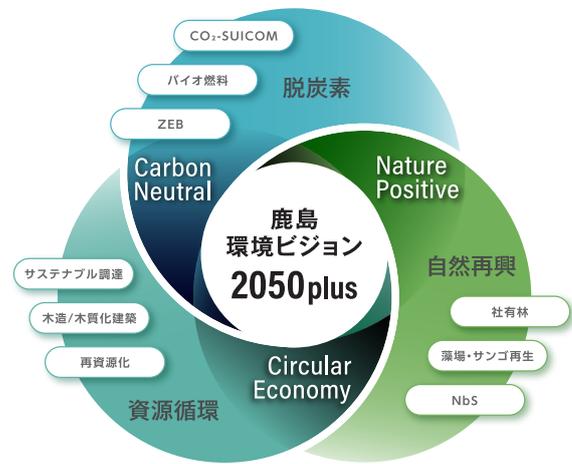
脱炭素 社会	<ul style="list-style-type: none"> ●2050年のカーボンニュートラルという目標に対応するため、再生可能エネルギーの導入とともに社会の省エネルギー化が急務である。 ●なかでも建築物の省エネ化は削減効果とともに費用対効果、対応の容易さの点からも優先度の高い施策として位置づけられており、ゼロエネルギービルへの取組みを中心に建設業への期待は大きい。 ●資源使用量が多く、資材の生産・加工・輸送に関わるCO₂排出も大きい。
資源循環 社会	<ul style="list-style-type: none"> ●建設業は資源消費量、廃棄量の大きい産業であることから、資源利用の効率化の余地あり。 ●他産業由来のものも含め再生材活用のポテンシャルが大きく、資源循環への役割が大きい。 ●建造物の長寿命化を通じ、ストック社会の創出にも役割は大きい。
自然共生 社会	<ul style="list-style-type: none"> ●建設事業を通じて直接自然環境を改変する立場にあり、地域の生態系に関与している。都市再開発等では生物多様性復元のポテンシャルも大きい。 ●人口の都市集中が進むなか、都市での生物多様性復元の重要性は高まる。 ●木材調達等、資源調達を通じて採取場所の生物多様性にも関わる。

● 鹿島環境ビジョン2050plus

鹿島は2013年に、「鹿島環境ビジョン:トリプルZero2050」を策定し、持続可能な社会を「脱炭素」「資源循環」「自然共生」の3つの視点でとらえ、2050年までに鹿島が達成すべき将来像を「Zero Carbon」「Zero Waste」「Zero Impact」と表現し、全社で達成に向けて取り組んできました。

2024年、環境ビジョンを見直し、「鹿島環境ビジョン2050plus」として改定しました。3つの分野「脱炭素」「資源循環」「自然再興(自然共生から変更)」が相互に関連しあっている(相乗効果・トレードオフ)ことも認識したうえで、グループの目標や行動計画を再構築しています。

これらの取組みは、当社だけでの実行が難しいことを私たちは認識しています。顧客、社会と協力して取り組んでいく意思と、2050年の先を見据えた持続性を「plus」に込めて、鹿島は新たな環境ビジョンのもと、環境保全と経済活動が両立する持続可能な社会の実現に向け、取組みを推進していきます。



2050年に向けたKPIと目標

	脱炭素	資源循環	自然再興
2050 年度 目標	カーボンニュートラルの実現 鹿島グループの温室効果ガス排出量 (スコープ1,2,3)実質ゼロ	サーキュラーエコノミー (再資源化率100%)の実現 良質なインフラ資産を基盤にサステナブルな資源で更新	ネイチャーポジティブの実現 サプライチェーン全体で自然再興に取り組み、生態系サービスを持続的に享受できる社会を実現する
2030 年度 目標	■排出量(2021年度比) Scope1,2 ▲42% Scope3 ▲25% ●電力グリーン化 100% ●バイオ燃料転換率 65%** ●低炭素コンクリート使用 40%** ●電炉鋼鉄骨使用 20%** ●ZEB水準 100%実現**	■主要資材における再生材使用率 60%* ■再資源化等率 99%* ■木造/木質化建築の定着 ■廃棄物資源化技術の普及*	■顧客・社会へのNbS提供 (環境認証等取得)累計 100件* ■自社所有地での自然再興の拡大*
2026 年度 目標	■排出量(2021年度比) Scope1,2 ▲23% Scope3 ▲10% ●電力グリーン化の実施 ●バイオ燃料の使用** ●低炭素コンクリート使用** ●電炉鋼鉄骨使用** ●ZEBによる省エネ率 40%**	■主要資材における再生材使用率 40%* ■再資源化等率 97%* ■木造/木質化建築の拡大 ■廃棄物資源化技術の開発*	■顧客・社会へのNbS提供 (環境認証等取得)件数 10件/年* ■自社所有地での自然再興に着手*

*:鹿島単体+国内グループ会社事業における目標 **:鹿島単体における目標

3か年目標と2023年度実績

		3か年(2021~2023年度)目標	2023年度実績
低炭素 (脱炭素)	施工	<ul style="list-style-type: none"> CO₂排出量原単位 2013年度比26%削減→2021年度比7%削減 	<ul style="list-style-type: none"> 2021年度比0.2%減
	設計	<ul style="list-style-type: none"> 顧客企業の脱炭素化に貢献するZEB化技術の深耕。ZEB、BELS(建築物省エネルギー性能表示制度)等ラベリング 制度の活用推進強化 エネルギーマネジメント技術の深耕 	<ul style="list-style-type: none"> スコープ3(下流) <ul style="list-style-type: none"> ZEB/ZEH等ラベリング制度の活用推進: 新築JOBの52% ZEB/ZEH認証取得: 7件 非住宅省エネルギー性能: BEI荷重平均0.64(36%削減) 再生可能エネルギーの導入: 15件 スコープ3(上流) <ul style="list-style-type: none"> 環境配慮コンクリートの適用: 新築JOBの17% 主要構造部材への電炉鋼の適用: 新築JOBの50%
資源循環	施工	<ul style="list-style-type: none"> 汚泥を含む最終処分率3%未満 	<ul style="list-style-type: none"> 汚泥を含む最終処分率3.0%
	設計	<ul style="list-style-type: none"> グリーン調達推進 	<ul style="list-style-type: none"> グリーン調達の推進: 平均5.6品目の提案
自然共生	設計	<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性優良プロジェクトの推進 	<ul style="list-style-type: none"> 生物多様性優良プロジェクト14件を選定(建築11件、土木1件、フロンティア2件)
	施工	<ul style="list-style-type: none"> 施工による自然環境への影響抑制(特に有害物質、汚濁水の管理) 	<ul style="list-style-type: none"> 重大な法違反や環境影響はなし
共通基盤	技術研究所	<ul style="list-style-type: none"> トリプルZero2050に貢献するため、全社との連携を緊密にして環境に貢献する研究開発を推進 	<ul style="list-style-type: none"> 環境関連の研究開発活動 <ul style="list-style-type: none"> 環境貢献技術開発(環境指定テーマ)件数: 17件実施 特許数: 20件 論文数: 40件 実適用数: 34件 環境関連の研究成果のPR <ul style="list-style-type: none"> 社内外へのPR: 77件
	エンジニアリング 事業本部	<ul style="list-style-type: none"> 社会情勢や顧客要求事項の変化への対応 各種化学物質の環境事故防止の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 各PJでのトリプルZero(ZERO-CARBON、ZERO-WASTE)対応を確認。 各PJでの各種化学物質への対応を確認。 排水処理技術を活用し、受注拡大に貢献
	環境本部	<ul style="list-style-type: none"> グループ会社と一体になった環境経営の推進 トリプルZero2050に基づいた技術の刷新、プロジェクトの創出 	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素/資源循環/自然再興の新たな目標/ロードマップを検討し、鹿島環境ビジョン2050plusを策定。 鹿島グループ全体の脱炭素2030年度目標値を定めSBTを取得。 再生可能エネルギー、資源循環、環境インフラ、自然再興など各分野でプロジェクトを推進中。

マテリアルフロー

■ 建設現場

INPUT	
● エネルギー	
電力	7,616万kWh <input checked="" type="checkbox"/>
うちグリーン電力	85万kWh
軽油	65,086kl <input checked="" type="checkbox"/>
GTL	107kl <input checked="" type="checkbox"/>
B100	25kl <input checked="" type="checkbox"/>
B5	419kl <input checked="" type="checkbox"/>
RD	0.1kl <input checked="" type="checkbox"/>
灯油	278kl <input checked="" type="checkbox"/>
ガソリン	511kl <input checked="" type="checkbox"/>
重油	497kl <input checked="" type="checkbox"/>
ガス	8.1万m ³ <input checked="" type="checkbox"/>
● 水 ^{※1}	
上水使用量	129万m ³ <input checked="" type="checkbox"/>
● 建設資材	
	1,099万t

OUTPUT	
● CO ₂ 排出量	20.9万t <input checked="" type="checkbox"/>
● 下水排出量	115.6万m ³ <input checked="" type="checkbox"/>
● 建設発生土	97.5万m ³ <input checked="" type="checkbox"/>
● 有害物質回収量	
アスベスト含有建材	2,374t <input checked="" type="checkbox"/>
フロン・ハロン	1.0t <input checked="" type="checkbox"/>
蛍光管	47.8t <input checked="" type="checkbox"/>
● 建設廃棄物	180.5万t <input checked="" type="checkbox"/>
● 最終処分量	5.4万t <input checked="" type="checkbox"/>

施工によるCO ₂ 排出量	
総排出量	20.9万t-CO ₂ <input checked="" type="checkbox"/>
原単位 ^{※2}	13.9t-CO ₂ /億円 <input checked="" type="checkbox"/>
削減率	0.2% <input checked="" type="checkbox"/>

※2 原単位分母は施工高(/億円)(非公開)

建設廃棄物の発生量と最終処分量	
発生量	180.5万t <input checked="" type="checkbox"/>
発生量(汚泥除く)	117.8万t <input checked="" type="checkbox"/>
最終処分量	5.4万t <input checked="" type="checkbox"/>
最終処分量(汚泥除く)	4.3万t <input checked="" type="checkbox"/>
最終処分率	3.0% <input checked="" type="checkbox"/>
最終処分率(汚泥除く)	3.7% <input checked="" type="checkbox"/>

■ オフィス, 不動産(共有部)

INPUT	
● エネルギー	
電力	4,155万kWh <input checked="" type="checkbox"/>
うちグリーン電力	858万kWh
軽油	7kl <input checked="" type="checkbox"/>
灯油	11kl <input checked="" type="checkbox"/>
重油	16kl <input checked="" type="checkbox"/>
ガソリン	0.07kl <input checked="" type="checkbox"/>
ガス	170万m ³ <input checked="" type="checkbox"/>
熱・蒸気・冷却	14,065GJ <input checked="" type="checkbox"/>
● 水 ^{※1}	
上水使用量	19.2万m ³ <input checked="" type="checkbox"/>

OUTPUT	
CO ₂ 排出量	1.8万t <input checked="" type="checkbox"/>
下水排出量 ^{※1}	19.2万m ³ <input checked="" type="checkbox"/>
廃棄物発生量 ^{※1}	1,680t <input checked="" type="checkbox"/>

※1 鹿島単体国内及び海外に設けたオフィスのみの値

■ データ対象範囲: 鹿島単体のすべて

- ・建設現場: 国内及び海外の直轄現場の全て(国内関連会社及び海外現地法人は対象外)
- ・オフィス, 不動産(共有部): 鹿島単体国内、海外に設けたオフィスの全てと、不動産の共有部(国内関連会社及び海外現地法人は対象外)

■ 第三者検証に関して

- ・2023年度の環境パフォーマンスデータ温室効果ガス排出量(スコープ1・2・3)、エネルギー使用量、上水使用量、下水排出量、有害物質、廃棄物排出量について一般財団法人日本品質保証機構(JQA)による第三者検証を受けています。第三者検証を受けた項目にはマークを記載しました。(検証書類を末頁に添付)

Zero Carbon

脱炭素

鹿島建設単体

CO₂排出量(建設現場、オフィス部門) (年度)

		2021	2022	2023
総排出量	万t-CO ₂	19.1	23.4	22.7
原単位※	t-CO ₂ /億円	15.3	16.4	14.6
削減率	%	基準年	+6.7	+4.5

※ 原単位は売上高(/億円)

建設現場からのCO₂排出量 (年度)

		2021(基準年)	2022	2023
総排出量	万t-CO ₂	17.7	22.6	20.9 <input checked="" type="checkbox"/>
原単位※	t-CO ₂ /億円	14.0	16.0	13.9 <input checked="" type="checkbox"/>
削減率	%	36.4	+14.9	0.2 <input checked="" type="checkbox"/>

※ 2020年度から集計方法を見直し、サンプリングによる推計から全現場でのデータを積み上げて計算をしています。

※ 原単位は施工高(/億円)

エネルギー使用量 (年度)

		2019	2020	2021	2022	2023
全エネルギー消費量※	万MWh	109.1	77.9	86.6	108.2	105.7 <input checked="" type="checkbox"/>
化石燃料消費量	万MWh	68.0	49.9	60.0	76.1	72.7 <input checked="" type="checkbox"/>
うち 建設現場	万MWh	67.8	49.7	59.7	75.2	70.7 <input checked="" type="checkbox"/>
うち オフィス、不動産(共有部)	万MWh	0.2	0.2	0.2	0.2	1.9 <input checked="" type="checkbox"/>
軽油代替燃料消費量 (B100、B5、GTL、RD)	万MWh				0.6	0.6 <input checked="" type="checkbox"/>
うち 建設現場	万MWh				0.6	0.6 <input checked="" type="checkbox"/>
うち オフィス、不動産(共有部)	万MWh				0	0 <input checked="" type="checkbox"/>
電力購入量	万MWh	14.6	9.9	9.4	11.4	11.8 <input checked="" type="checkbox"/>
うち 建設現場	万MWh	12.1	7.3	6.6	8.7	7.6 <input checked="" type="checkbox"/>
うち オフィス、不動産(共有部)	万MWh	2.5	2.6	2.8	2.7	4.1 <input checked="" type="checkbox"/>
蒸気・熱・冷却購入量 (オフィス、不動産のみ)	万MWh	0.6	0.6	0.6	0.5	0.5 <input checked="" type="checkbox"/>

※ 全エネルギー消費量は電力購入量を一次エネルギー換算した数値を合計しているため、下3段の単純合計値とは異なります。

建物の省エネルギー設計に伴うCO₂削減量 (年度)

		2019	2020	2021	2022	2023
建物の省エネルギー設計に伴うCO ₂ 削減量※	万t-CO ₂	97.5	63.4	61.6	126.6	126.7

※ 当該年度に竣工した自社設計建築物の省エネルギー設計に伴う削減量(年間)に建築物のライフサイクル(60年)を乗じたもの。

Zero Carbon

脱炭素

スコープ別CO₂排出量

(年度)

鹿島建設単体		2021 ^{※1}	2022 ^{※1}	2023
スコープ1	万t-CO ₂	14.9	18.9	17.9 <input checked="" type="checkbox"/>
スコープ2	万t-CO ₂	4.2	4.6	4.8 <input checked="" type="checkbox"/>
スコープ3	万t-CO ₂	879.8	1,209.4	1,143.7 <input checked="" type="checkbox"/>
カテゴリ1 (購入した製品・サービス)	万t-CO ₂	405.6	570.2	500.8 <input checked="" type="checkbox"/>
カテゴリ2 (資本財)	万t-CO ₂	8.7	9.9	8.4 <input checked="" type="checkbox"/>
カテゴリ3 (スコープ1, 2に含まれない燃料 またはエネルギー関連活動)	万t-CO ₂	2.8	3.5	3.3 <input checked="" type="checkbox"/>
カテゴリ4 (輸送・配送 上流)	万t-CO ₂	39.5	57.1	50.2 <input checked="" type="checkbox"/>
カテゴリ5 (事業から出る廃棄物)	万t-CO ₂	1.0	1.1	1.1 <input checked="" type="checkbox"/>
カテゴリ6 (出張)	万t-CO ₂	0.1	0.1	0.1 <input checked="" type="checkbox"/>
カテゴリ7 (雇用者の通勤)	万t-CO ₂	0.6	0.5	0.6 <input checked="" type="checkbox"/>
カテゴリ8 (リース資産・上流)	万t-CO ₂	0.0	0.0	0.0 <input checked="" type="checkbox"/>
カテゴリ9 (輸送・配送 下流)	万t-CO ₂	0.0	0.0	0.0 <input checked="" type="checkbox"/>
カテゴリ10 (販売した製品の加工)	万t-CO ₂	0.0	0.0	0.0 <input checked="" type="checkbox"/>
カテゴリ11 (販売した製品の使用)	万t-CO ₂	409.7	546.6	543.1 <input checked="" type="checkbox"/>
カテゴリ12 (販売した製品の廃棄)	万t-CO ₂	9.6	15.6	13.2 <input checked="" type="checkbox"/>
カテゴリ13 (リース資産・下流)	万t-CO ₂	2.2	4.8	1.9 <input checked="" type="checkbox"/>
カテゴリ14 (フランチャイズ)	万t-CO ₂	0.0	0.0	0.0 <input checked="" type="checkbox"/>
カテゴリ15 ^{※2} (投資)	万t-CO ₂	0.0	0.0	21.0 <input checked="" type="checkbox"/>
スコープ1, 2, 3合計	万t-CO ₂	898.9	1,232.8	1,166.4 <input checked="" type="checkbox"/>

※1 2023年8月のSBT認定取得に伴い、スコープ3カテゴリ11の算定方法を変更しました。そのため2021年度、2022年度実績についても値を変更しています。

・カテゴリ11: 当該年度に竣工した建築物のライフサイクル(60年と設定)の運用時CO₂排出量を計上。

※2 カテゴリ15: 2023年度から連結・非連結子会社、関連会社の排出するCO₂を計上。

Zero Carbon

脱炭素

鹿島グループ

スコープ別CO₂排出量

(年度)

鹿島グループ		2021 ^{※1}	2022 ^{※1}	2023
スコープ1	万t-CO ₂	24.5	29.1	27.1
スコープ2	万t-CO ₂	12.9	13.8	14.3
スコープ3	万t-CO ₂	1,345.3	2,030.0	1,936.0
カテゴリ1 (購入した製品・サービス)	万t-CO ₂	615.3	921.6	828.4
カテゴリ2 (資本財)	万t-CO ₂	19.8	29.3	16.2
カテゴリ3 (スコープ1, 2に含まれない燃料 またはエネルギー関連活動)	万t-CO ₂	6.0	6.5	5.9
カテゴリ4 (輸送・配送 上流)	万t-CO ₂	57.8	89.7	81.1
カテゴリ5 (事業から出る廃棄物)	万t-CO ₂	2.7	5.2	6.1
カテゴリ6 (出張)	万t-CO ₂	0.3	0.3	0.3
カテゴリ7 (雇用者の通勤)	万t-CO ₂	1.4	1.3	1.4
カテゴリ8 (リース資産・上流)	万t-CO ₂	0.0	0.0	0.0
カテゴリ9 (輸送・配送 下流)	万t-CO ₂	1.3	0.6	0.4
カテゴリ10 (販売した製品の加工)	万t-CO ₂	0.0	0.0	0.0
カテゴリ11 (販売した製品の使用)	万t-CO ₂	615.7	935.3	944.7
カテゴリ12 (販売した製品の廃棄)	万t-CO ₂	13.2	26.0	22.5
カテゴリ13 (リース資産・下流)	万t-CO ₂	8.7	10.6	8.0
カテゴリ14 (フランチャイズ)	万t-CO ₂	0.0	0.0	0.0
カテゴリ15 ^{※2} (投資)	万t-CO ₂	3.0	3.7	21.0
スコープ1, 2, 3合計	万t-CO ₂	1,382.7	2,072.9	1,977.3

※1 2023年8月のSBT認定取得に伴い、スコープ1、スコープ3カテゴリ1、11の算定方法を変更しました。そのため2021年度、2022年度実績についても値を変更しています。

- ・スコープ1: 海外グループ会社が施工する工事において協力会社が使用する軽油を除く。
- ・カテゴリ1: 海外グループ会社が施工する工事において協力会社が使用する軽油を含む。
- ・カテゴリ11: 当該年度に竣工した建築物のライフサイクル(60年と設定)の運用時CO₂排出量を計上。

※2 カテゴリ15: 2023年度から連結・非連結子会社、関連会社の排出するCO₂を計上。

スコープ3の合計と各カテゴリの合計は、四捨五入の関係で一致しません。

鹿島グループのCO₂排出量

		スコープ1	スコープ2	スコープ1, 2
鹿島建設(単体)	万t-CO ₂	17.9	4.8	22.7
国内グループ会社	万t-CO ₂	7.9	2.2	10.1
海外グループ会社	万t-CO ₂	1.3	7.3	8.6
鹿島グループ合計	万t-CO ₂	27.1	14.3	41.4

Zero Waste

資源循環

海外現場は廃棄物に関する基準や処理方法が国によって大きく異なるため、算定対象外としています。

資材の使用量

(年度)

主要資材			2019	2020	2021	2022	2023
鉄	総使用量	t			867,860	943,593	1,109,909
セメント・コンクリート	総使用量	t	1,558,339	1,569,311	4,338,657	8,021,759	4,838,117
砕石	総使用量	t	691,046	361,439	1,663,110	1,860,099	2,894,952
アスファルト	総使用量	t	26,378	20,039	3,040	417,130	673,122
その他	総使用量	t			1,200,113	2,111,643	1,478,622
合計	総使用量	t	2,275,763	1,950,789	8,072,781	13,354,224	10,994,722

※ 2020年度までは主要建材のみ集計していましたが、2021年度からは全建設資材を集計しています。

建設廃棄物の発生量と最終処分

(年度)

		2019	2020	2021	2022	2023
発生量	万t	145.5	159.2	228.6	188.2	180.5 <input checked="" type="checkbox"/>
発生量(汚泥除く)	万t	88.4	102.1	151.5	120.8	117.8 <input checked="" type="checkbox"/>
最終処分量	万t	5.7	4.0	5.4	5.1	5.4 <input checked="" type="checkbox"/>
最終処分量(汚泥除く)	万t	2.9	3.3	3.7	4.3	4.3 <input checked="" type="checkbox"/>
最終処分率	%	3.9	2.5	2.4	2.7	3.0 <input checked="" type="checkbox"/>
最終処分率(汚泥除く)	%	3.3	3.2	2.4	3.6	3.7 <input checked="" type="checkbox"/>

※ 総廃棄物処分量: 建設現場(上表)とオフィス(別表: オフィスの廃棄物発生量)の合計は56,142t

2023年度品目別発生量

品目	発生量	発生量/全体
コンクリート塊	689,571t <input checked="" type="checkbox"/>	38% <input checked="" type="checkbox"/>
アスファルト・コンクリート塊	116,501t <input checked="" type="checkbox"/>	6% <input checked="" type="checkbox"/>
発生木材	42,114t <input checked="" type="checkbox"/>	2% <input checked="" type="checkbox"/>
建設汚泥	627,766t <input checked="" type="checkbox"/>	35% <input checked="" type="checkbox"/>
混合廃棄物	46,006t <input checked="" type="checkbox"/>	3% <input checked="" type="checkbox"/>
廃プラスチック	9,832t <input checked="" type="checkbox"/>	1% <input checked="" type="checkbox"/>
その他	273,617t <input checked="" type="checkbox"/>	15% <input checked="" type="checkbox"/>
合計	1,805,406 t <input checked="" type="checkbox"/>	100% <input checked="" type="checkbox"/>

オフィスの廃棄物発生量

(年度)

		2019	2020	2021	2022	2023
廃棄物	t	2,096.5	1,670.0	2,129.0	1650.8	1,680.4 <input checked="" type="checkbox"/>

上水使用量

(年度)

		2019	2020	2021	2022	2023
建設現場	万m ³	60.9	87.0	91.8	122.7	129.4 <input checked="" type="checkbox"/>
オフィス	万m ³	15.0	15.0	16.2	17.0	19.2 <input checked="" type="checkbox"/>
合計	万m ³	75.9	102.0	108.1	139.7	148.6 <input checked="" type="checkbox"/>

下水排出量

(年度)

		2020	2021	2022	2023
建設現場	万m ³	112.3	98.3	92.4	115.6 <input checked="" type="checkbox"/>
オフィス	万m ³	15.0	16.2	17.0	19.2 <input checked="" type="checkbox"/>
合計	万m ³	127.3	114.5	109.4	134.8 <input checked="" type="checkbox"/>

注: 建設現場で上水使用量より下水処理量が多いのは、雨水や湧水を処理しているためです。

Zero Waste

資源循環

品目		コンクリート塊			アスファルト・コンクリート塊			発生木材			
		2021	2022	2023	2021	2022	2023	2021	2022	2023	
処理区分	リサイクル量	t	853,921	704,839	687,837 <input checked="" type="checkbox"/>	253,363	99,040	115,814 <input checked="" type="checkbox"/>	61,198	37,808	40,553 <input checked="" type="checkbox"/>
	減量化量	t	18	20	331 <input checked="" type="checkbox"/>	33	4	40 <input checked="" type="checkbox"/>	686	411	785 <input checked="" type="checkbox"/>
	最終処分量	t	1,199	5,154	1,388 <input checked="" type="checkbox"/>	2,140	252	646 <input checked="" type="checkbox"/>	709	462	601 <input checked="" type="checkbox"/>
総計		t	855,138	710,012	689,556 <input checked="" type="checkbox"/>	255,535	99,296	116,501 <input checked="" type="checkbox"/>	62,593	38,681	41,938 <input checked="" type="checkbox"/>
品目		建設汚泥			廃プラスチック*			混合廃棄物			
		2021	2022	2023	2021	2022	2023	2021	2022	2023	
処理区分	リサイクル量	t	507,470	490,432	474,117 <input checked="" type="checkbox"/>	5,615	5,608	5,823 <input checked="" type="checkbox"/>	20,077	22,698	36,207 <input checked="" type="checkbox"/>
	減量化量	t	47,787	34,920	40,771 <input checked="" type="checkbox"/>	805	823	874 <input checked="" type="checkbox"/>	2,643	1,880	1,584 <input checked="" type="checkbox"/>
	最終処分量	t	17,581	8,143	11,455 <input checked="" type="checkbox"/>	2,403	2,386	3,135 <input checked="" type="checkbox"/>	7,915	11,235	8,216 <input checked="" type="checkbox"/>
総計		t	572,838	533,496	526,343 <input checked="" type="checkbox"/>	8,823	8,817	9,832 <input checked="" type="checkbox"/>	30,635	35,813	46,006 <input checked="" type="checkbox"/>

* 廃プラスチックとして分別した数量です。混合廃棄物に混入しているものは含みません。

品目		コンクリート塊			アスファルト・コンクリート塊			発生木材			
		2021	2022	2023	2021	2022	2023	2021	2022	2023	
処理区分	リサイクル率	%	99.9	99.3	99.8 <input checked="" type="checkbox"/>	99.1	99.7	99.4 <input checked="" type="checkbox"/>	98.1	98.0	96.7 <input checked="" type="checkbox"/>
	減量化率	%	0.0	0.0	0.0 <input checked="" type="checkbox"/>	0.0	0	0.0 <input checked="" type="checkbox"/>	0.9	1.0	1.9 <input checked="" type="checkbox"/>
	最終処分率	%	0.0	0.7	0.2 <input checked="" type="checkbox"/>	0.8	0.3	0.6 <input checked="" type="checkbox"/>	1.0	1.1	1.4 <input checked="" type="checkbox"/>
総計		%	100	100	100 <input checked="" type="checkbox"/>	100	100	100 <input checked="" type="checkbox"/>	100	100	100 <input checked="" type="checkbox"/>
品目		建設汚泥			廃プラスチック*			混合廃棄物			
		2021	2022	2023	2021	2022	2023	2021	2022	2023	
処理区分	リサイクル率	%	69.4	74.3	77.8 <input checked="" type="checkbox"/>	63.6	63.6	59.2 <input checked="" type="checkbox"/>	65.5	63.4	78.7 <input checked="" type="checkbox"/>
	減量化率	%	28.3	24.5	20.4 <input checked="" type="checkbox"/>	9.0	9.3	8.9 <input checked="" type="checkbox"/>	9.0	5.2	3.4 <input checked="" type="checkbox"/>
	最終処分率	%	2.3	1.2	1.8 <input checked="" type="checkbox"/>	27.2	27.1	31.9 <input checked="" type="checkbox"/>	25.8	31.4	17.9 <input checked="" type="checkbox"/>
総計		%	100	100	100 <input checked="" type="checkbox"/>	100	100	100 <input checked="" type="checkbox"/>	100	100	100 <input checked="" type="checkbox"/>

プラスチックの取組み

プラスチック資源循環促進法が2022年4月に施行されました。鹿島も多量排出事業者として、排出抑制と再資源化に取り組んでいます。具体的には、現場で使用するヘルメットや作業服、胸章などの組織的な回収・リサイクルに継続的に取り組むとともに、現場では分別促進によるリサイクル向上に努めます。

鹿島グループ

鹿島グループの廃棄物発生量（汚泥除く）

主要資材			2023
総廃棄物量	単体	t	1,179,321
	グループ	t	1,547,173
リサイクル量	単体	t	1,135,445
	グループ	t	1,483,987
最終処分量	単体	t	43,876
	グループ	t	63,186
再資源化等率	単体	%	96.2
	グループ	%	95.9

Zero Impact

■ 有害物質の管理

フロン・ハロン回収量		(年度)				
		2019	2020	2021	2022	2023
回収量	t	0.2	3.9	1.9	3.2	1.0 <input checked="" type="checkbox"/>

廃蛍光管回収量		(年度)				
		2019	2020	2021	2022	2023
回収量	t	43.3	49.2	66.4	49.1	47.8 <input checked="" type="checkbox"/>

PCB含有機器の処分		(年度)				
		2019	2020	2021	2022	2023
個数		105(台)	0	0	0	204.4(kg) <input checked="" type="checkbox"/>

有害物質処分量(2017年度より開示)		(年度)				
		2019	2020	2021	2022	2023
フロン・ハロン、 廃蛍光管(水銀)、 石綿及びその他有害物質	t	216,398	104,127	62,867	141,402	107,022 <input checked="" type="checkbox"/>

アスベスト含有建材回収量		(年度)				
		2019	2020	2021	2022	2023
回収量	t	6,197	14,251	8,916	5,627	2,374 <input checked="" type="checkbox"/>

土壌汚染調査の実績		(年度)				
		2019	2020	2021	2022	2023
指定調査機関としての調査件数	件	9	9	25	15	15
うち法調査件数	件	4	4	8	9	11

大気汚染物質の排出量		(年度)				
		2019	2020	2021	2022	2023
NOX	t	1,120	821	987	1,252	1,196 <input checked="" type="checkbox"/>
SOX	t	167	122	147	186	178 <input checked="" type="checkbox"/>

■ 自然再興

2023年度生物多様性優良プロジェクト

分野	件名	分野	件名
建築	Rapidus(株)新工場IIM-1建設計画	建築	ヒルトン沖縄宮古島リゾート
建築	トヨタアリーナ東京	建築	KX-FOREST KARUIZAWA 鹿島軽井沢泉の里保養所
建築	(仮称)柏の葉キャンパス新技術センター計画 新築工事	建築	ほか2件
建築	駒沢こもれびプロジェクト	土木	新桂沢ダム堤体建設工事(寒冷地におけるエコスタック の生態系保全機能の普遍性および持続性の検証)
建築	(仮称)芝浦工業大学大宮キャンパス新施設整備事業	フロンティア*	サンゴ礁の再生プロジェクト「InCORE®」をフィリピンで始 動(アジア開発銀行の国際公募サンゴ再生事業に採択)
建築	三井リンクラボ新木場3新築工事	フロンティア	日影山ボナリ山林の自然共生サイト登録
建築	(仮称)ETPJ新築計画		

※ フロンティア: 鹿島が施工した案件以外での優れた取組み

2023年度環境会計報告

1. 取組み概要

鹿島は以下の理由で環境会計の対象を建設廃棄物に限定したセグメント会計に移行しています。

- 建設廃棄物はマニフェスト管理されており、数値(品目別の排出量・処理処分量)の精度が高いこと。
- これまでの環境会計の調査結果から、廃棄物は全環境コストの半分を占める最大のコスト要因であること。
- 廃棄物処理をコスト、環境影響の両面から評価し、ゼロエミッションへのインセンティブとして活用できること。

2. 主要建設廃棄物での集計結果

品目	排出量(152.1万t)	処理費(144億円)	CO ₂ 排出量(0.2万t)
汚泥	627,766t	7,882百万円	83t
コンクリート塊	689,571t	2,942百万円	746t
アスファルト・コンクリート塊	116,501t	514百万円	129t
混合廃棄物(管理)	42,868t	1,859百万円	90t
混合廃棄物(安定)	2,599t	98百万円	7t
発生木材	42,114t	1,112百万円	446t
合計	1,521,418t	14,406百万円	1,501t
参考:全廃棄物	1,805,406t	-	11,416t
主要品目比率	84%	-	13%

建設業の特性として以下が挙げられます。

- 混混合廃棄物と発生木材は、排出量に比べ処理費用への影響が大きくなっています。
- コンクリート塊、アスファルト・コンクリート塊は容易にリサイクルされるため、排出量に比し費用・CO₂排出量への影響は小さくなっています。

3. 評価

- 廃棄物処理全般に起因するCO₂排出量0.2万tは施工起因の20.9万tの0.7%程度に相当します。(2022年度は0.6%)
- 施工高に占める廃棄物処理費の割合は1.0%程度に相当します。(2022年度は0.9%)

4. 環境対応に関する研究開発投資額

- 2023年度の環境対応に関する研究開発投資額は9,400百万円でした。

算定手法

【数量】

- マニフェスト伝票の数値を環境情報システムで一元管理しており、そこから出力しています。

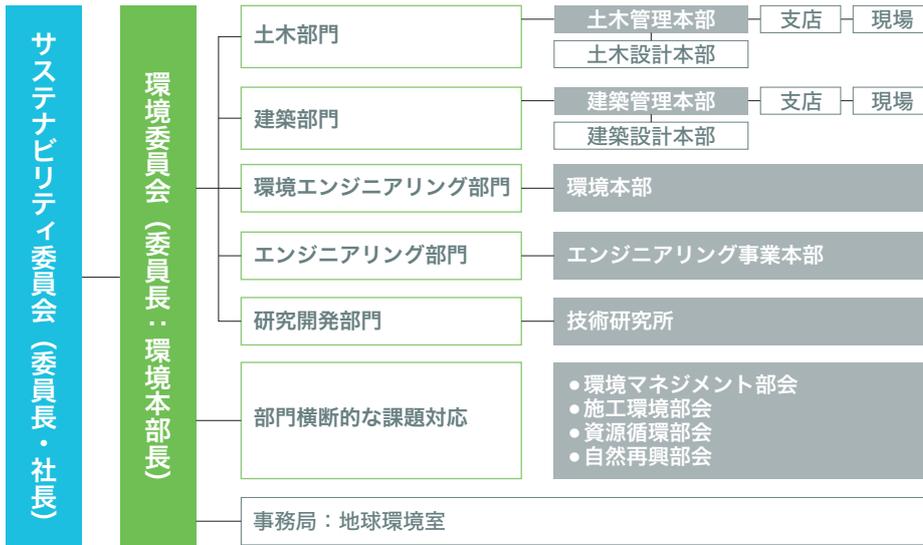
【処理費】

- 工事ごとの処理単価を集計し、支店別・品目別に平均処理単価を設定しています。

【CO₂排出量】

- 品目別廃棄物量に、廃棄物運搬時、廃棄時のCO₂排出量原単位(環境省データベースより)を乗じて計算しています。
- パウンダリーは現場から最初に搬出される中間処理施設・処分場までとし、当該施設以降は対象外としています。
- 海外現場は廃棄物に関する基準や処理方法が国によって大きく異なるため、対象外としています。

環境マネジメント体制



鹿島は、ISO14001に準拠して、環境マネジメントシステムを運用しています。環境委員会（サステナビリティ委員会の下部専門委員会）のもと、土木、建築、環境、エンジニアリング、研究開発の5部門で推進し、部門横断的な課題については、環境マネジメント、施工環境、資源循環、自然再興の4つの部会のほか、省エネ法対応などもワーキンググループを組織して活動しています。

グループ会社については、国内外のグループ会社のエネルギー使用量を調査し、特に排出の多い会社とは削減策の検討をしています。

ISO14001の認証登録範囲は、本社ビル群、技術研究所、全支店の16拠点です。
(ただし開発事業本部は認証登録外)

環境マネジメントシステム認証

登録証本証

鹿島建設株式会社

東京都港区元赤坂1丁目3番1号

JIS Q 14001:2015(ISO 14001:2015)
認証番号: MSA-ES-24

真組織の環境マネジメントシステムを審査した結果、下記の認証範囲において適用規格の要求事項に適合していることを証明します。

認証範囲
土木構造物、建築物及び関連施設に関わる設計、施工、研究開発及びエンジニアリング

認証範囲に含まれるサイト・部署の詳細情報
上記認証番号及び下記発効日を付した附属書に記載

MSA 認証日	1999年12月17日	初回認証日	1999年12月17日
発効日	2023年12月08日	改訂日	2023年12月08日
有効期限	2026年12月16日	再認証日	2023年11月28日

東京都港区浜松町2丁目2番12号
株式会社 マネジメントシステム評価センター

代表取締役社長 **鈴木浩二**
鈴木 浩二

本登録証は本証及び附属書で構成され、電子文書として発行されたものです。その著作権、意匠及び商標はMSAに帰属します。この電子文書による本登録証の有効性は isemsh@msa.co.jp までお問い合わせください。

登録証附属書

認証番号: MSA-ES-24

認証範囲に含まれるサイト・部署の詳細情報

<被認証組織認証範囲と同じ>

- 本社 環境本部
東京都港区赤坂6丁目5番30号
- 本社 総務管理本部 総務部
東京都港区元赤坂1丁目3番1号
- 本社 広報室
東京都港区元赤坂1丁目3番1号
- 本社 技術研究所
東京都調布市飛田給2丁目19番1号
- 本社 エンジニアリング事業本部
東京都港区赤坂6丁目5番30号
- 本社 土木管理本部
東京都港区元赤坂1丁目3番8号
- 本社 土木設計本部
東京都港区元赤坂1丁目3番8号
- 本社 機械部
東京都港区元赤坂1丁目3番8号
- 本社 海外土木事業部
東京都港区元赤坂1丁目3番8号
- 本社 安全環境部
東京都港区赤坂6丁目5番11号
- 本社 建築管理本部
東京都港区赤坂6丁目5番11号

MSA 認証日	1999年12月17日	初回認証日	1999年12月17日
発効日	2023年12月08日	改訂日	2023年12月08日
有効期限	2026年12月16日	再認証日	2023年11月28日

本登録証は本証及び附属書で構成され、電子文書として発行されたものです。その著作権、意匠及び商標はMSAに帰属します。この電子文書による本登録証の有効性は isemsh@msa.co.jp までお問い合わせください。

(1/5)

第三者検証報告



発行日: 2024年7月25日
第 1811004913号

環境情報検証報告書

鹿島建設株式会社 御中

1. 検証の対象

一般財団法人日本品質保証機構(以下、「当機構」という。)は、鹿島建設株式会社が作成した2023年度の「鹿島建設株式会社 環境パフォーマンスの算定(2024年7月10日)」(以下、「算定報告書」という。))が、同社により作成された「鹿島建設 環境パフォーマンスデータの算定ルール(2024年7月)」(以下、「算定ルール」という。))に準拠し、正確に測定、算出されていることについて第三者検証を行った。2023年度とは、2023年4月1日から2024年3月31日までの期間をいう。

検証の目的は、「算定報告書」を客観的に評価し、同社の2023年度の温室効果ガス排出量(Scope1,2,3)、エネルギー使用量、上水使用量、下水排出量、廃棄物発生量、最終処分量、最終処分率、再資源化等率、有害物質(18種)排出量・移動量、PCB含有機器の処分台数及びNOx、SOx発生量の算定の信頼性をより高めることにある。

2. 実施した検証の概要

当機構は、温室効果ガス排出量及びエネルギー使用量については「ISO14064-3」、上水使用量、下水排出量、廃棄物発生量、最終処分量、最終処分率、再資源化等率、有害物質(18種)排出量・移動量、PCB含有機器の処分台数及びNOx、SOx発生量については「ISAE3000」に準拠して検証を実施した。本検証業務の対象活動範囲はScope1.2のエネルギー起源CO₂排出量、エネルギー使用量(熱量換算値を含む)、Scope3の温室効果ガス排出量(カテゴリ1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15)、上水使用量、下水排出量、廃棄物発生量、最終処分量、最終処分率、再資源化等率、有害物質(18種)排出量・移動量、PCB含有機器の処分台数及びNOx、SOx発生量であり、保証水準は「限定的保証水準」、重要性の量的判断基準はそれぞれの総量の5%とした。また、本検証業務の対象組織範囲は、鹿島建設株式会社の国内建築・土木施工現場及び海外の土木施工現場、国内74拠点、海外7拠点のオフィス並びに国内63拠点のリース物件である。

「算定ルール」の確認及び検証手続きは、鹿島建設株式会社本社にて実施し、算定・集計体制の確認、算定シナリオの確認、及び各データについて根拠資料との突き合わせ等を実施した。Scope1.2及びエネルギー使用量(熱量換算値を含む)については、サンプリングによりオフィス2拠点、リース物件2拠点の排出量データについて、上水使用量、下水排出量、廃棄物発生量、最終処分量、最終処分率、及び再資源化等率については、サンプリングによりオフィス4拠点の排出量データについて、根拠資料との突き合わせを行った。有害物質(18種)排出量・移動量、PCB含有機器の処分台数及びNOx、SOx発生量に関する検証手続きは、排出量データについて根拠資料との突き合わせを行った。また、Scope3については、算定シナリオの確認、算定集計体制の確認及び算定データについて根拠資料との突き合わせを行った。

3. 検証の結論

検証の対象とした、「算定報告書」の2023年度の温室効果ガス排出量、エネルギー使用量(熱量換算値を含む)、上水使用量、下水排出量、廃棄物発生量、最終処分量、最終処分率、再資源化等率、有害物質(18種)排出量・移動量、PCB含有機器の処分台数及びNOx、SOx発生量について、「算定ルール」に準拠せず、正確に算定されていない事項は発見されなかった。なお、主な検証対象活動範囲と算定結果は表1に示すとおりである。

4. 留意事項

「算定報告書」の算定責任は鹿島建設株式会社にあり、温室効果ガス排出量、エネルギー使用量(熱量換算値を含む)、上水使用量、下水排出量、廃棄物発生量、最終処分量、最終処分率、再資源化等率、有害物質(18種)排出量・移動量、PCB含有機器の処分台数及びNOx、SOx発生量の検証の結論に関する責任は当機構にある。鹿島建設株式会社と当機構との間には、特定の利害関係はない。

東京都千代田区神田須田町一丁目25番地

一般財団法人日本品質保証機構

理事 浅田 純男

本書と付属書を含めてご覧ください。
1 / 2



発行日: 2024年7月25日
第 1811004913号

環境情報検証報告書 [付属書]

鹿島建設株式会社 御中

表1 主な検証対象活動範囲と算定結果

温室効果ガス排出量		
Scope1		178,976
Scope2		48,052
Scope3		11,436,569
Scope3 内訳	カテゴリ1	5,007,833
	カテゴリ2	83,671
	カテゴリ3	33,350
	カテゴリ4	501,549
	カテゴリ5	11,416
	カテゴリ6	1,068
	カテゴリ7	5,939
	カテゴリ8	0
	カテゴリ9	0
	カテゴリ10	0
	カテゴリ11	5,430,623
	カテゴリ12	131,928
	カテゴリ13	19,334
	カテゴリ14	0
	カテゴリ15	209,858

エネルギー	
全エネルギー使用量	MWh 1,057,068

水		
上水使用量	m ³	1,485,824
下水排出量	m ³	1,347,642

廃棄物		
建設廃棄物の発生量(汚泥含む)	t	1,805,406
建設廃棄物の最終処分量(汚泥含む)	t	54,462
建設廃棄物の最終処分率(汚泥含む)	%	3.0
再資源化等率	%	96.4
オフィスの廃棄物発生量	t	1,681

有害物質		
有害物質(18種)排出量・移動量	t	107,022
NOx発生量	t	1,196
SOx発生量	t	178

以上

本書と付属書を含めてご覧ください。
2 / 2